

作物統計調査
令和7年産水稻の収穫量（九州）

令和7年産主食用米の収穫量は前年産に比べ9万4千トン増で
令和元年以来最大となった。

【調査結果の概要】

- 1 九州における生産者が使用しているふるい目幅1.80mm、1.85mmベースの収穫量（主食用）※¹は73万6,900 tで、前年産に比べ9万3,700 t増加となった。

※1 生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm、1.85mm）ベースのふるい上米

これは、

- ① 作付面積（主食用）が14万9,500haで、前年産に比べ1万1,300ha増加となったことに加え、
② 九州の10 a 当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は492kgで、前年産に比べ26kg増加となったためである。

- 2 九州の作況単収指数は106となった。各県の作況単収指数は、統計表のとおりである。

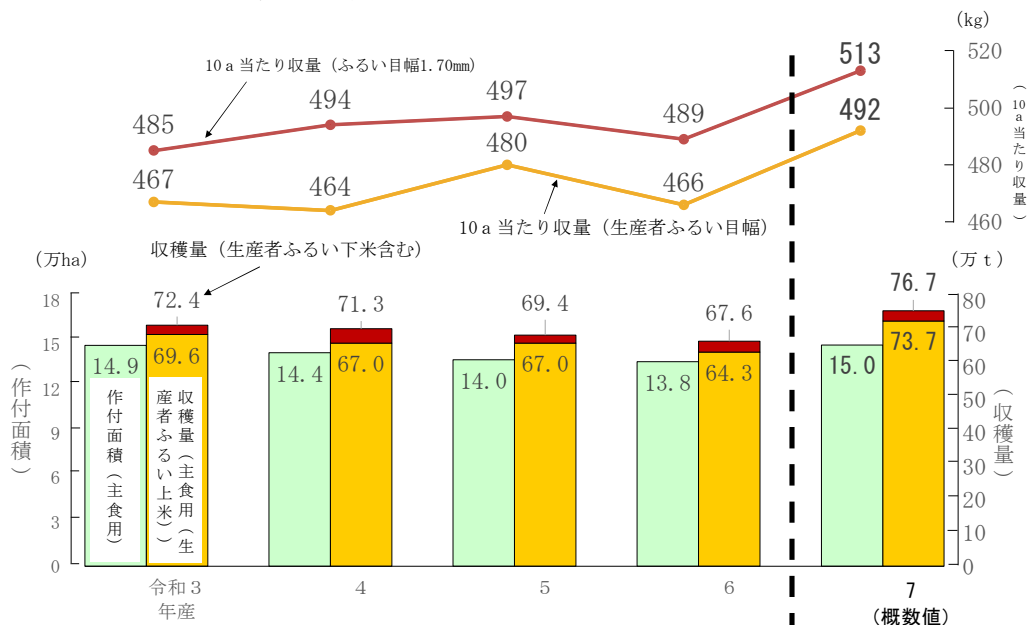
参考

九州におけるふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用）※²は76万7,400 tで、前年産に比べ9万1,400 t増加となった。

※2 生産者が使用しているふるい目幅1.80mm、1.85mmベースのふるい下米を含む。

- 令和7年産調査から生産者の実感に合うよう、生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm、1.85mm）で収穫量を公表することとし、前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

図1 水稻の作付面積（主食用）、10 a 当たり収量及び収穫量の推移（九州）



- 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10 a 当たり収量の比率である。

◎累年データ

水稻の年次別推移（九州）

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別			作況 単収 指数	ふるい目幅 1.70mmで選別		
		10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい上米))		10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふる い下米含む))
	ha	kg	%	t		kg	%	t
平成27年産	166,300	467	nc	776,600	99	484	nc	806,100
28	161,300	489	105	788,100	104	507	105	817,500
29	158,700	490	100	779,400	105	510	101	811,400
30	156,100	494	101	771,400	104	512	100	800,000
令和元	155,100	418	85	647,400	87	435	85	674,300
2	153,200	404	97	617,600	84	440	101	673,300
3	149,300	467	116	696,300	100	485	110	723,800
4	144,400	464	99	669,900	101	494	102	713,200
5	139,500	480	103	669,900	107	497	101	693,800
6	138,200	466	97	643,200	104	489	98	676,000
7	149,500	492	106	736,900	106	513	105	767,400

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（主食用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（12ページの【参考1】参照）。

2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 生産者が使用しているふるい目幅は、以下による。

平成27年産から令和元年産まで： 全国農業地域ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である。

令和2年産以降： 都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である。

都道府県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
ふるい目幅	1.85mm	1.85mm	1.80mm	1.85mm	1.85mm	1.80mm	1.80mm

4 作況単収指数は、10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10 a 当たり収量の比率である。

また、平成27年産から令和元年産までの作況単収指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、令和2年産以降の作況単収指数は生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した数値である。

5 前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

6 「nc」は計算不能であることを示している。

図2 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の分布状況（九州）
（生産者が使用しているふりい目幅ベース）

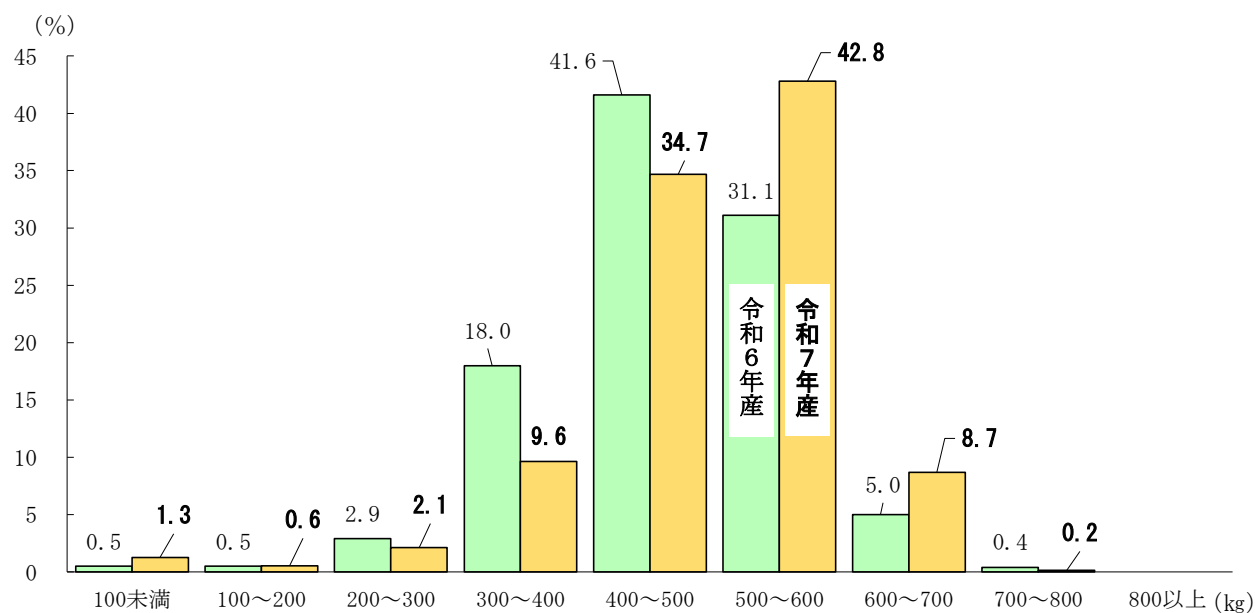


図3 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の前年差の分布状況（九州）
（生産者が使用しているふりい目幅ベース）

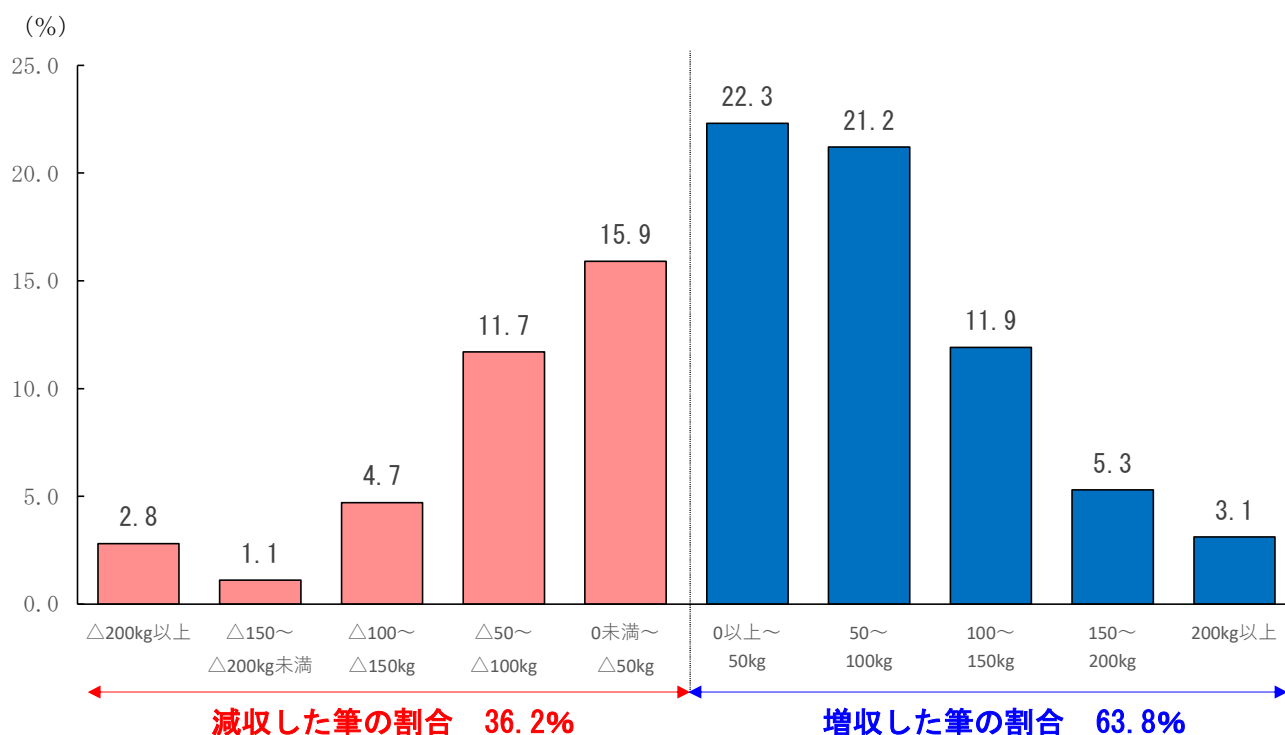


表 1 令和 7 年産水稻の玄米品位の状況（九州）

単位：％				
区 分	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒
重量割合	4.8	0.3	1.4	0.2

- 注：1 水稻作況標本筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を、筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したものであり、調製のうえ販売される玄米の品位とは異なる。
- 2 白未熟粒は白色不透明な部分の大きさが粒平面の 1／2 以上のものである粒、死米は粉状質で光沢がないものが 2／3 以上を占める粒、胴割粒は粒平面に横一条の亀裂がすっきり通っている粒、着色粒は着色部分の大きさが直径 1 mm 以上かつ粒表面の 2／3 以下のものである粒をいう。
- 3 品位分析が完了した筆の結果である。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）

生産者等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）を示すと次のとおりである。

本調査では、農産物規格規程に定める三等以上の玄米の重量を把握しており、未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

表 2 ふるい目幅別重量分布状況の推移（九州）

単位：％							
年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
令和 2 年産	100.0	2.0	3.7	4.4	6.7	26.4	56.8
3	100.0	0.9	1.7	2.1	3.4	18.1	73.8
4	100.0	1.4	2.8	3.3	4.9	21.7	65.9
5	100.0	0.8	1.5	1.8	3.2	14.5	78.2
6	100.0	1.1	2.0	2.5	4.4	17.7	72.3
7	100.0	1.0	1.6	1.9	3.3	13.3	78.9
対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.6	△ 1.1	△ 4.4	6.6

注： ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。

表3 ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（九州）

年 産	区 分	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
令和2年産	10a 当たり収量	kg	440	431	415	396	366	250
	収穫量（主食用）	t	673,300	659,800	634,900	605,300	560,200	382,400
3	10a 当たり収量	kg	485	481	472	462	446	358
	収穫量（主食用）	t	723,800	717,300	705,000	689,800	665,200	534,200
4	10a 当たり収量	kg	494	487	473	457	433	326
	収穫量（主食用）	t	713,200	703,200	683,200	659,700	624,800	470,000
5	10a 当たり収量	kg	497	493	486	477	461	389
	収穫量（主食用）	t	693,800	688,200	677,800	665,400	643,200	542,600
6	10a 当たり収量	kg	489	484	474	462	440	354
	収穫量（主食用）	t	676,000	668,600	655,000	638,100	608,400	488,700
7	10a 当たり収量	kg	513	508	500	490	474	406
	収穫量（主食用）	t	767,400	760,000	748,000	733,800	708,400	606,100
	対前年比 （収穫量（主食用））	%	114	114	114	115	116	124

【調査結果】

1 作付面積

九州における令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は14万9,500haで、前年産に比べ1万1,300ha増加となった。

2 10a 当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

九州の10a 当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、492kg（前年産に比べ+26kg）となった。

これは、早期栽培では3月下旬以降の低温の影響により初期生育に遅れがみられたものの、出穂期以降おおむね天候に恵まれ生育が良好となった。普通栽培では、9月上旬に台風第15号が接近したものの、登熟期間中がおおむね天候に恵まれたことから、多くの地域で粒の充実が良好となったためである。

各県別にみると、以下のとおりである。

福岡県は478kg（前年産に比べ+36kg）、佐賀県は515kg（同+33kg）、長崎県は492kg（同+20kg）、熊本県は504kg（同+17kg）、大分県は488kg（同+29kg）、宮崎県は483kg（同+16kg）、鹿児島県は484kg（同+30kg）となった。

3 収穫量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

主食用作付面積に10a 当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は73万6,900t（前年産に比べ9万3,700t 増加）となった。

4 作況単収指数（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

九州の作況単収指数は106となった。

参考

10a 当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）

九州の10a 当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）は、513kg（前年産に比べ+24kg）となった。

各県別にみると、以下のとおりである。

福岡県は504kg（前年産に比べ+37kg）、佐賀県は540kg（同+35kg）、長崎県は502kg（同+15kg）、熊本県は525kg（同+9kg）、大分県は515kg（同+24kg）、宮崎県は492kg（同+11kg）、鹿児島県は493kg（同+23kg）となった。

収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（ふるい目幅1.70mmベース）

主食用作付面積に10a 当たり収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は76万7,400t（前年産に比べ9万1,400t 増加）となった。

表 4 令和 7 年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量

区 分	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						作況 単収 指数
	実 数 ①	前年産との比較		10 a 当たり 収量		収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				
				実 数 ②	前年産との 比較 対 比	実 数 ③＝①×②	前年産との比較			
		対	差				対 比	対	差	
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		
九 州	149,500	11,300	108	492	106	736,900	93,700	115	106	
福 岡	34,500	2,300	107	478	108	164,900	22,600	116	107	
佐 賀	23,700	1,700	108	515	107	122,100	16,100	115	107	
長 崎	9,460	100	101	492	104	46,500	2,300	105	107	
熊 本	31,900	3,100	111	504	103	160,800	20,500	115	107	
大 分	18,900	1,100	106	488	106	92,200	10,500	113	107	
宮 崎	13,500	1,100	109	483	103	65,200	7,300	113	102	
うち 早期栽培	…	nc	nc	482	105	…	nc	nc	102	
うち 普通栽培	…	nc	nc	484	103	…	nc	nc	103	
鹿 児 島	17,600	2,000	113	484	107	85,200	14,400	120	105	
うち 早期栽培	…	nc	nc	466	107	…	nc	nc	104	
うち 普通栽培	…	nc	nc	490	107	…	nc	nc	105	

区 分	ふるい目幅1.70mmで選別				
	10 a 当たり 収量		収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））		
	実 数 ④	前年産との 比較 対 比	実 数 ⑤＝①×④	前年産との比較	
				対 差	対 比
	kg	%	t	t	%
九 州	513	105	767,400	91,400	114
福 岡	504	108	173,900	23,500	116
佐 賀	540	107	128,000	16,900	115
長 崎	502	103	47,500	1,900	104
熊 本	525	102	167,500	18,900	113
大 分	515	105	97,300	9,900	111
宮 崎	492	102	66,400	6,800	111
うち 早期栽培	488	104	…	nc	nc
うち 普通栽培	494	101	…	nc	nc
鹿 児 島	493	105	86,800	13,500	118
うち 早期栽培	474	106	…	nc	nc
うち 普通栽培	499	105	…	nc	nc

注：1 作付面積（主食用）（①）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された 10 a 当たり収量（②）及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された 10 a 当たり収量（②）については、各県の過去 5 か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

4 10 a 当たり収量（④）及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。

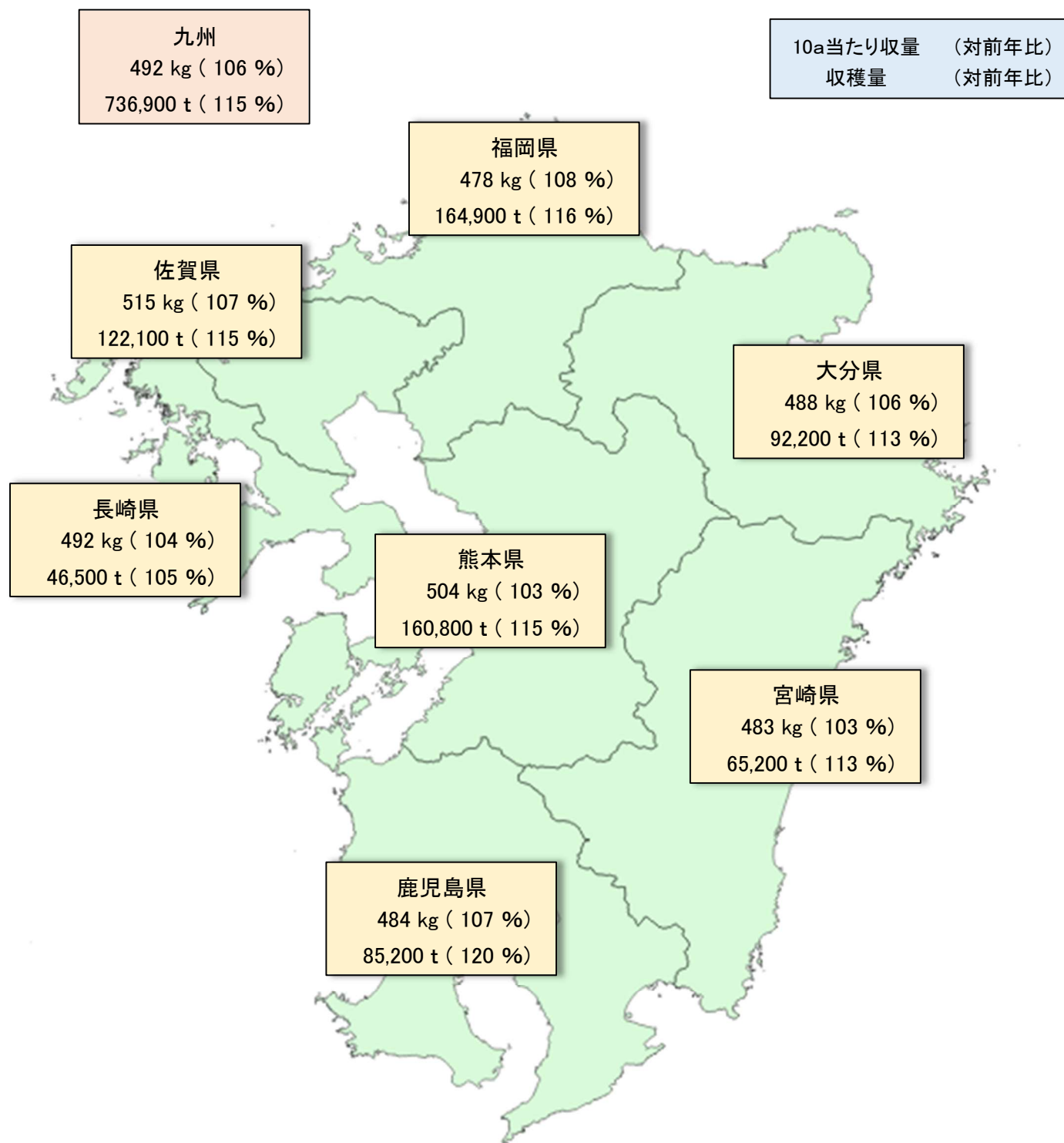
5 収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）については、各県の積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

6 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した 10 a 当たり収量の前年産までの 5 か年中 3 年平均（最高、最低除く）に対する 10 a 当たり収量の比率である。

7 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

8 「nc」は、計算不能であることを示している。

図4 令和7年産九州管内の県別10a当たり収量及び収穫量
(収穫期)
(生産者が使用しているふるい目幅ベース)



注： 生産者が使用しているふるい目幅は、九州の各県ごとに、過去5か年平均において、最も多い使用割合を占めるふるい目幅である。

【生産者が使用しているふるい目幅】

都道府県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
ふるい目幅	1.85mm	1.85mm	1.80mm	1.85mm	1.85mm	1.80mm	1.80mm

表5 令和7年産ふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
九 州	重量割合	100.0	1.0	1.6	1.9	3.3	13.3	78.9
	前 年 値	100.0	1.1	2.0	2.5	4.4	17.7	72.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.6	△ 1.1	△ 4.4	6.6
福 岡	重量割合	100.0	1.1	1.8	2.3	3.6	13.3	77.9
	前 年 値	100.0	1.1	1.8	2.5	4.4	14.7	75.5
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	△ 0.2	△ 0.8	△ 1.4	2.4
佐 賀	重量割合	100.0	1.1	1.6	1.7	3.3	12.4	79.9
	前 年 値	100.0	0.9	1.7	2.0	3.7	17.0	74.7
	対前年差(ポイント)	0.0	0.2	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.4	△ 4.6	5.2
長 崎	重量割合	100.0	0.6	1.1	1.6	2.5	12.2	82.0
	前 年 値	100.0	1.1	2.0	2.4	3.9	16.0	74.6
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.5	△ 0.9	△ 0.8	△ 1.4	△ 3.8	7.4
熊 本	重量割合	100.0	1.0	1.5	1.8	3.0	13.7	79.0
	前 年 値	100.0	1.1	2.0	2.5	4.7	18.7	71.0
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.5	△ 0.7	△ 1.7	△ 5.0	8.0
大 分	重量割合	100.0	1.1	1.9	2.2	4.5	16.0	74.3
	前 年 値	100.0	1.3	2.3	2.9	5.8	21.3	66.4
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.7	△ 1.3	△ 5.3	7.9
宮 崎	重量割合	100.0	0.6	1.2	1.5	2.5	13.9	80.3
	前 年 値	100.0	1.0	1.9	2.5	3.4	19.5	71.7
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.7	△ 1.0	△ 0.9	△ 5.6	8.6
うち 早期栽培	重量割合	100.0	0.5	0.9	1.0	1.5	8.1	88.0
	前 年 値	100.0	0.7	1.3	1.7	2.7	18.8	74.8
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.7	△ 1.2	△ 10.7	13.2
うち 普通栽培	重量割合	100.0	0.7	1.4	1.9	3.1	17.3	75.6
	前 年 値	100.0	1.1	2.3	2.9	3.8	19.9	70.0
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.9	△ 1.0	△ 0.7	△ 2.6	5.6
鹿 児 島	重量割合	100.0	0.7	1.2	1.7	2.8	10.9	82.7
	前 年 値	100.0	1.2	2.3	3.1	4.3	17.8	71.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.5	△ 1.1	△ 1.4	△ 1.5	△ 6.9	11.4
うち 早期栽培	重量割合	100.0	0.6	1.2	1.6	2.7	12.1	81.8
	前 年 値	100.0	0.7	1.4	1.9	3.4	18.1	74.5
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.7	△ 6.0	7.3
うち 普通栽培	重量割合	100.0	0.7	1.2	1.7	2.8	10.6	83.0
	前 年 値	100.0	1.4	2.5	3.4	4.5	17.7	70.5
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.7	△ 1.3	△ 1.7	△ 1.7	△ 7.1	12.5

表 6 令和 7 年産ふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）

区 分		単位	1. 70mm 以 上	1. 75mm 以 上	1. 80mm 以 上	1. 85mm 以 上	1. 90mm 以 上	2. 00mm 以 上
九 州	10 a 当たり収量	kg	513	508	500	490	474	406
	収穫量（主食用）	t	767, 400	760, 000	748, 000	733, 800	708, 400	606, 100
福 岡	10 a 当たり収量	kg	504	498	489	478	459	392
	収穫量（主食用）	t	173, 900	172, 000	168, 900	164, 900	158, 600	135, 400
佐 賀	10 a 当たり収量	kg	540	534	525	515	498	431
	収穫量（主食用）	t	128, 000	126, 600	124, 500	122, 100	117, 900	102, 100
長 崎	10 a 当たり収量	kg	502	499	492	483	470	410
	収穫量（主食用）	t	47, 500	47, 200	46, 500	45, 800	44, 500	38, 800
熊 本	10 a 当たり収量	kg	525	522	514	504	490	417
	収穫量（主食用）	t	167, 500	165, 800	163, 300	160, 800	155, 700	132, 500
大 分	10 a 当たり収量	kg	515	509	499	488	465	383
	収穫量（主食用）	t	97, 300	96, 200	94, 400	92, 200	87, 800	72, 200
宮 崎	10 a 当たり収量	kg	492	487	483	475	463	395
	収穫量（主食用）	t	66, 400	66, 000	65, 200	64, 200	62, 500	53, 200
うち早期栽培	10 a 当たり収量	kg	488	486	482	477	470	430
	収穫量（主食用）	t
うち普通栽培	10 a 当たり収量	kg	494	490	484	475	459	374
	収穫量（主食用）	t
鹿 児 島	10 a 当たり収量	kg	493	489	484	476	462	408
	収穫量（主食用）	t	86, 800	86, 200	85, 200	83, 800	81, 400	71, 900
うち早期栽培	10 a 当たり収量	kg	474	469	466	458	444	387
	収穫量（主食用）	t
うち普通栽培	10 a 当たり収量	kg	499	496	490	482	469	416
	収穫量（主食用）	t

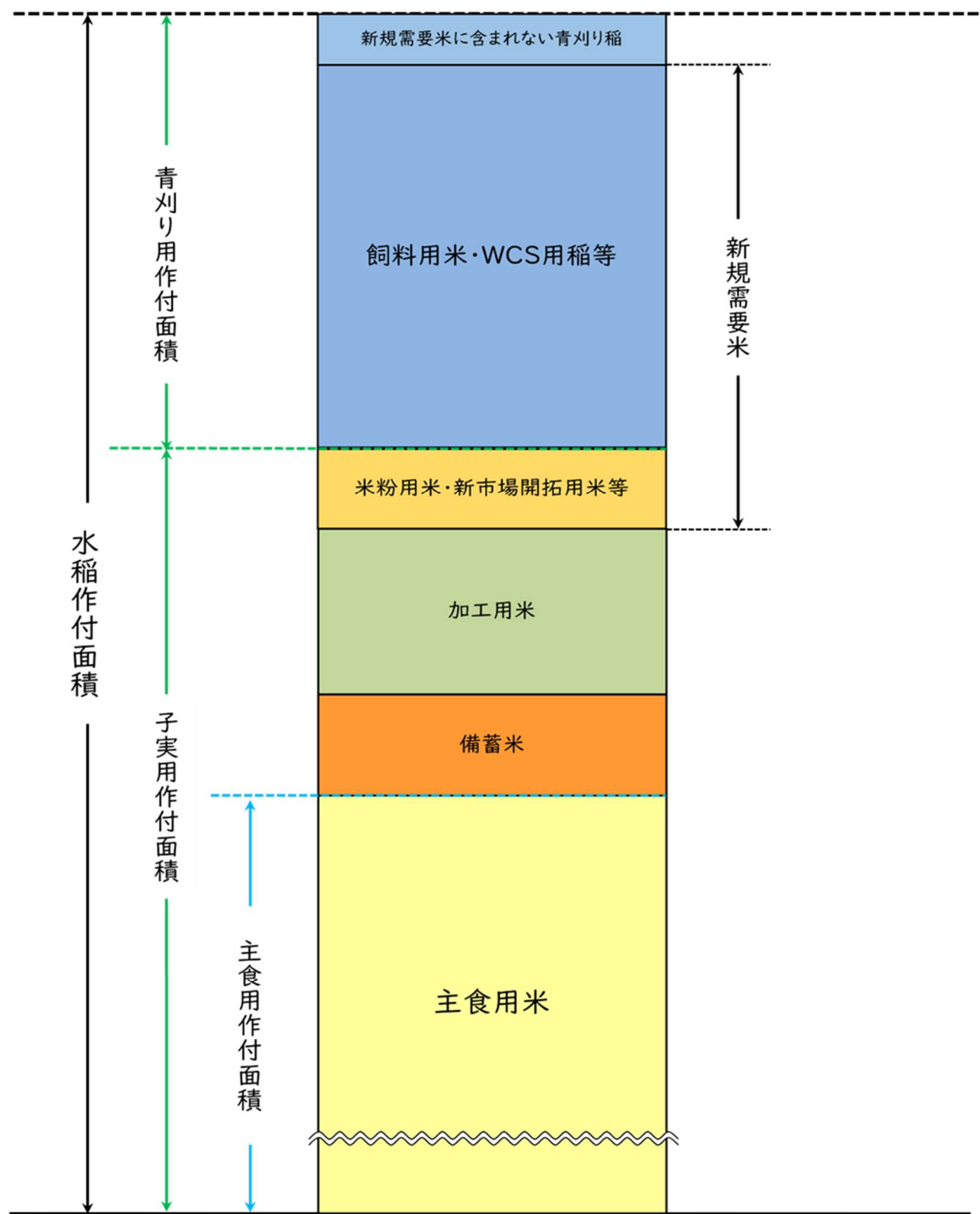
表7 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の分布状況

		単位：％									
区 分		計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
九州	筆数割合	100.0	1.3	0.6	2.1	9.6	34.7	42.8	8.7	0.2	－
	前年値	100.0	0.5	0.5	2.9	18.0	41.6	31.1	5.0	0.4	－
	対前年差(ポイント)	0.0	0.8	0.1	△ 0.8	△ 8.4	△ 6.9	11.7	3.7	△ 0.2	－
福岡	筆数割合	100.0	－	0.4	2.7	11.6	46.0	36.6	2.7	－	－
	前年値	100.0	0.4	0.4	1.5	8.5	36.9	47.7	4.6	－	－
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.4	0.0	1.2	3.1	9.1	△ 11.1	△ 1.9	－	－
佐賀	筆数割合	100.0	－	－	1.1	5.8	31.1	50.9	11.1	－	－
	前年値	100.0	－	0.5	1.4	7.6	26.2	44.7	18.6	1.0	－
	対前年差(ポイント)	0.0	－	△ 0.5	△ 0.3	△ 1.8	4.9	6.2	△ 7.5	△ 1.0	－
長崎	筆数割合	100.0	5.5	－	0.8	5.5	30.5	46.0	11.7	－	－
	前年値	100.0	－	－	－	14.7	36.7	45.3	3.3	－	－
	対前年差(ポイント)	0.0	5.5	－	0.8	△ 9.2	△ 6.2	0.7	8.4	－	－
熊本	筆数割合	100.0	2.5	0.4	2.5	9.2	28.5	42.7	14.2	－	－
	前年値	100.0	－	0.4	0.7	9.3	36.8	42.8	10.0	－	－
	対前年差(ポイント)	0.0	2.5	0.0	1.8	△ 0.1	△ 8.3	△ 0.1	4.2	－	－
大分	筆数割合	100.0	0.7	0.7	1.3	11.8	34.6	44.4	6.5	－	－
	前年値	100.0	－	－	2.2	13.7	39.3	40.5	3.8	0.5	－
	対前年差(ポイント)	0.0	0.7	0.7	△ 0.9	△ 1.9	△ 4.7	3.9	2.7	△ 0.5	－
宮崎	筆数割合	100.0	－	1.2	2.9	13.5	38.3	33.5	10.0	0.6	－
	前年値	100.0	－	0.5	2.9	16.7	44.2	28.1	7.6	－	－
	対前年差(ポイント)	0.0	－	0.7	0.0	△ 3.2	△ 5.9	5.4	2.4	0.6	－
鹿児島	筆数割合	100.0	1.2	1.2	3.1	9.3	32.1	48.2	4.3	0.6	－
	前年値	100.0	0.5	1.5	2.0	23.2	35.9	31.8	5.1	－	－
	対前年差(ポイント)	0.0	0.7	△ 0.3	1.1	△ 13.9	△ 3.8	16.4	△ 0.8	0.6	－

注： 10a 当たり収量は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

【参考 1】

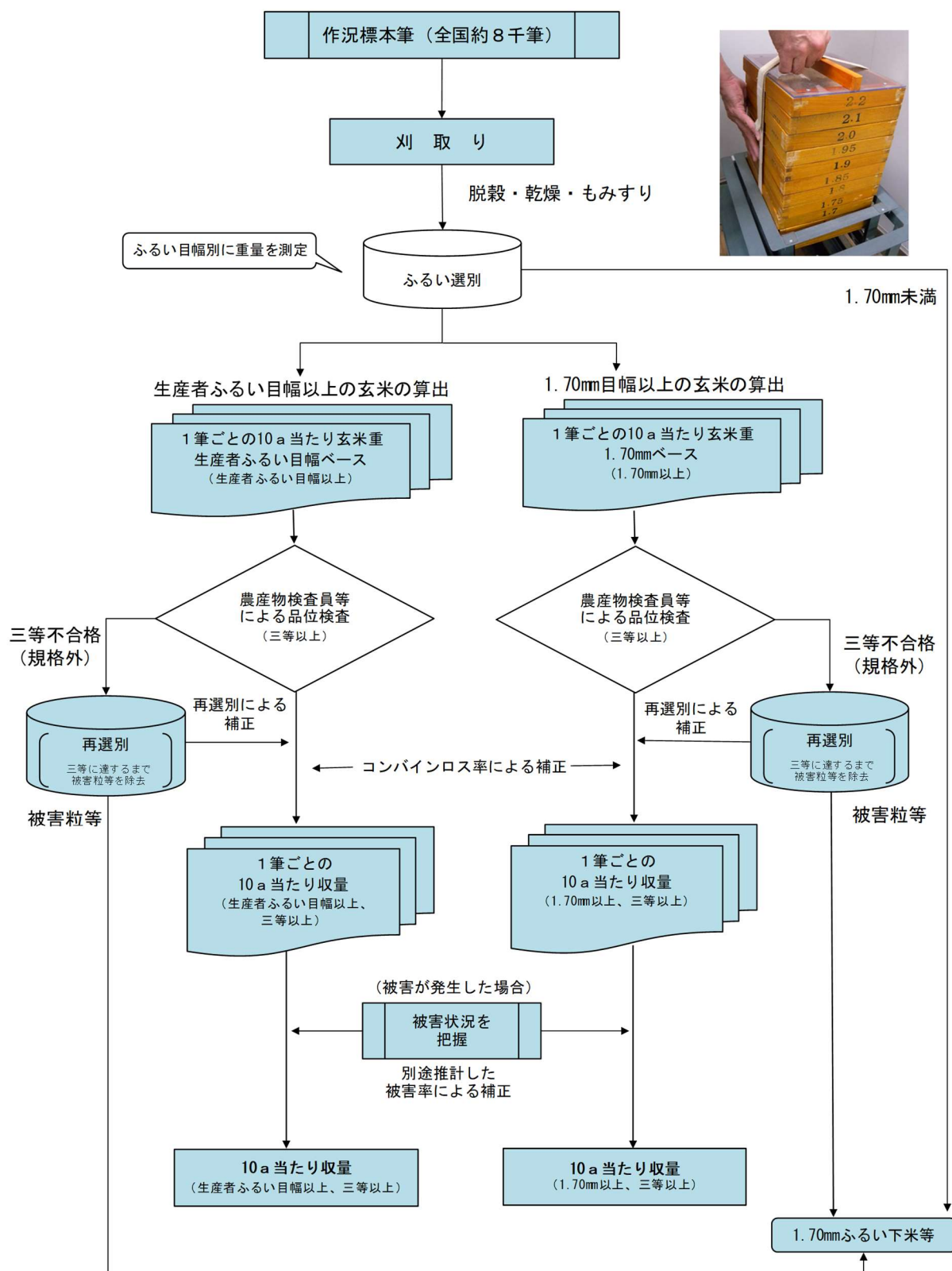
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い10 a 当たり収量を算出している（下図参照）。

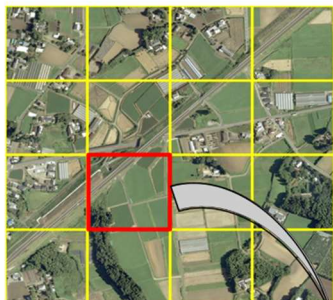


【参考 3】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



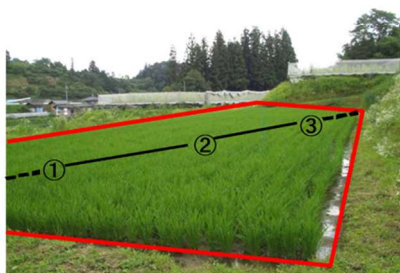
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）

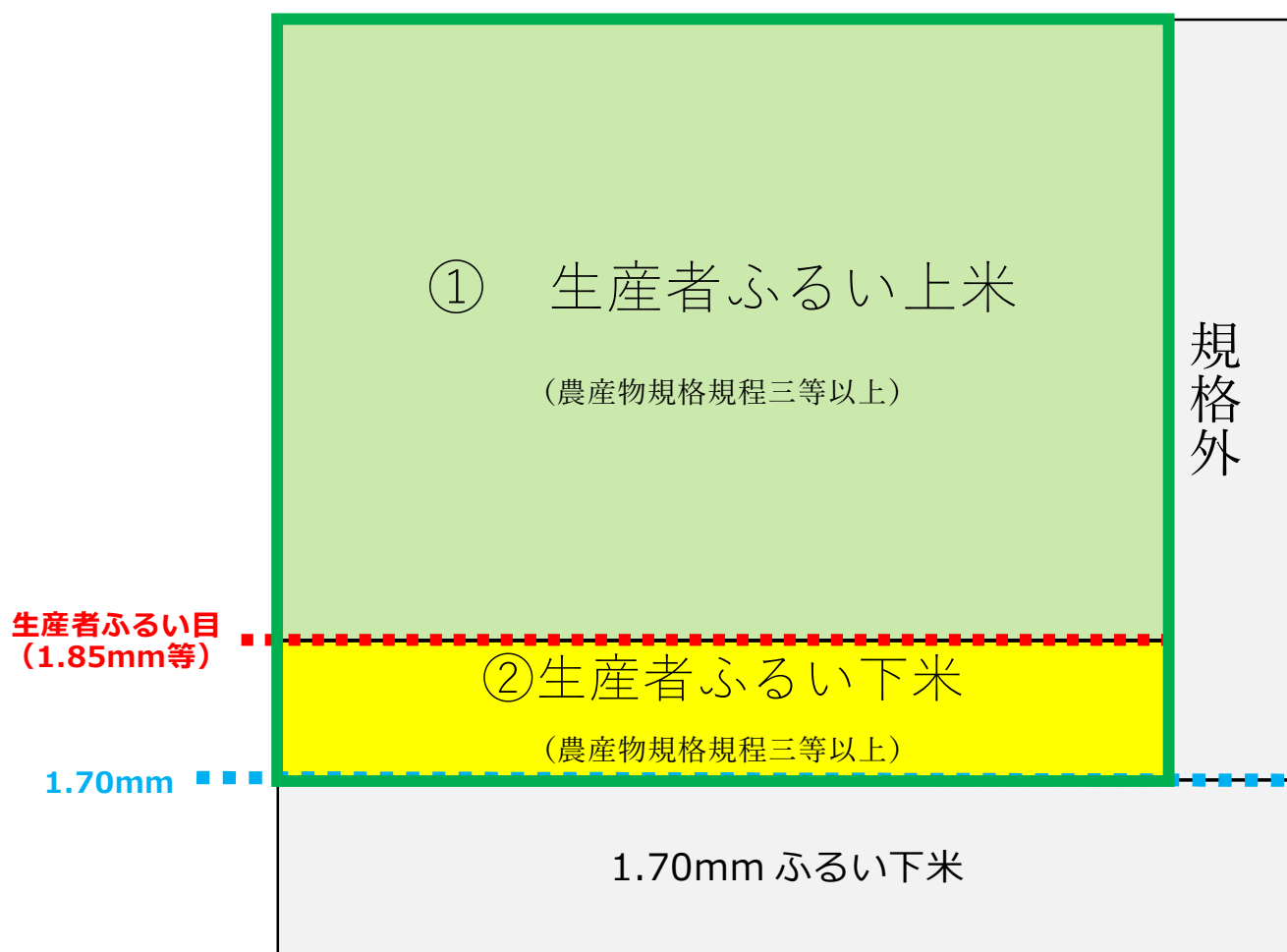


- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【参考 4】

水稻収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、都道府県ごとに最も使用されている生産者ふるい目（1.85、1.90mm 等）以上で農産物規格規程三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅 1.70mm 以上、農産物規格規程三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



【統計表】

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/press/toukei/251212.html>

【調査の概要】

・面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 九州の各種農林水産統計調査結果は、九州農政局ホームページの「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei>



- ・ 全国の調査結果は、農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3



- ・ 確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和8年2月予定）します。

【関連リンク】

- ・ 農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

- ・ 病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予防事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

- ・ 気象庁
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・ 各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞水稲の生育状況・技術情報リンク集
<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

九州農政局 統計部 生産流通消費統計課

面 積 電話：（直通）096-300-6575（生産統計第1係長）

収穫量 電話：（直通）096-300-6576（統計専門官）

九州農政局 福岡県拠点 統計担当

電話：（直通）092-281-8262

九州農政局 佐賀県拠点 統計担当

電話：（直通）0952-26-4138

九州農政局 長崎県拠点 統計担当

電話：（直通）095-845-6227

九州農政局 統計部 統計調査担当

電話：（直通）096-300-6583

九州農政局 大分県拠点 統計担当

電話：（直通）097-532-6177

九州農政局 宮崎県拠点 統計担当

電話：（直通）0985-24-2373

九州農政局 鹿児島県拠点 統計担当

電話：（直通）099-222-7583

◎農林水産統計全般について

九州農政局 統計部 統計企画課（企画係長）

電話：（直通）096-300-6540



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。
農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries